

事業報告書（令和元年度）

事業名 ミュージカル「つながるねがい京山編」

団体名 劇団公民館京山 担当者名 鴨井 典栄

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

日 時	2020年1月26日(日) 14:30～
場 所	京山公民館
参加対象者	劇団員、観客
人 数	15人+70人
内 容	京山公民館で行われた第15回岡山市北区京山地区ESDフェスティバルにおいて、ミュージカル「つながるねがい京山編」の公演を行った。 物語は、岡山藩第二代当主・池田綱政とその家臣である津田永忠の二人を主人公とし、岡山藩の初代お殿様、池田光政が世界最古の庶民のための公立学校（閑谷学校）を造り、父の意志を継ぎ2代目、池田綱政は民を楽しませる場所として、後楽園を造り、その二人に任せ永忠が実務面で支えていたという史実を基本としている。また、人と人とが通じ合う中で、支え合って苦難を乗り越えて行くことも盛り込んでいる。

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

地域のコミュニティである公民館で練習することで、地域の様々な人・団体と交流するようになった。昨年好評だった背景として使用する映像についても、京山公民館で活動するMovie京山という団体と協働で作成している。今年は実際の閑谷学校や後楽園の写真を増やすことで、より一層、岡山の歴史が現在にも続いていることを思い出してもらえるように工夫した。劇団員自身も閑谷学校や岡山城に足を運び、歴史を学ぶ機会を設けた。

昨年からの見直した点として、史実を基に、池田光政が造った学校を、水害により息子の綱政の時代に廃止することになったことを劇の内容として盛り込んだ。そのことにより、観客の方に対して、綱政の葛藤を通じて、教育とは、まちづくりとは、という具体的なESDのテーマを考えやすい舞台とした。また、舞台の製作の過程で、自分と向き合う時間や互いに意見を出し合う機会をとるようにしている。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

公民館で練習した結果、地域の色々な団体と交流することができたことによって、詩吟や八朔おどりの方が舞台に参加してくれました。その方々から、京山地区の歴史や文化について教えていただき、劇団員は多くのことが学べたと思う。劇を観た観客からも、八朔おどりを初めてみた、応援したいや、岡山のことを考えることができた、今を当たり前とは思わず先人に感謝したいといった感想が得られた。そういった感想を劇団員でも共有し改めて劇を通じて伝えることについて感じてもらうことができた。また、劇団員の笑顔が素敵だった、ダンスがよかった、前観た方々からの年々よくなっているという感想も劇団員の励みとなった

また、今回の劇団員は昨年よりも小中学生の参加が増えた。そのことにより、高校生以上が小中学生の手助けをする機会が増え、舞台の準備の役割分担や練習場所やスケジュール調整においても、年齢に応じて助け合う姿がみられた。自分と向き合い、他人の個性を尊重し、話し合いを行うなかで一人一人が成長できたと思う。台詞、振り付け、演技について、中心となる担当を設けつつ、互いに意見を交わし、皆でより良い舞台を目指す姿がみられた。

4. 今後の課題と展望

公演毎に、演劇への習熟があがってきていると感じており、今後も引き続き居場所作りと劇の創作に取り組みたいと思っている。今後の展開について、アンケートの「子供が今まで見たことのない表情で演技していた」「毎回楽しそうに練習に参加していた」など、保護者からの意見をいただき、劇団員にとって劇団の存在が新たな居場所になるよう全員で努力する。





